

令和2年度 施政方針 華のある都市古河

まちに活力、人に安心、魅力あふれる都市づくり

SDGs とは

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



古河市長 針谷 力

令和2年度における市政運営の基本方針およびそれに基づく主要施策等の概要について説明します。

市政運営の基本方針について

一 災害に対する安心と安全

市では、近年において最大級の大雨であった昨年10月の台風第19号に際し、市民の皆さまへの大規模な避難指示や、全ての指定避難所を開設するなど、これまでに経験したことのない災害対応を行うこととなりました。

このことから、現在、これまでの経験を検証した上で、より精度の高いハザードマップを作成するとともに、避難所の機能強化や避難場所の見直し、災害情報の発信力の強化など、さまざまな課題に取り組んでいるところです。引き続き、災害発生時に市民の皆さまが安心して行動できる環境をしっかりと整えてまいります。また、災害発生時においては、災

害対策本部の機能を堅持する必要があることから、これまで総和庁舎に配置していた市役所の災害対策部門を、被災の可能性が低い三和庁舎に移転するとともに、同庁舎の非常用電源設備を増強するなど、災害対策や業務継続機能を強化するための取り組みを実施してまいります。

二 プロジェクトの推進

市における大きなプロジェクトとして、新市建設計画における先導的プロジェクトを強く推進しておりますが、このプロジェクト事業の現状や近年の社会情勢等を鑑み、計画をより加速化させるために、新市建設計画の計画期間をさらに10年延長することを考えております。

この手続きにつきましては、市議会からの承認をいただく必要があることから、市民の皆さまや議員各位に対して、これまでの経過や今後の

計画について十分な説明をさせていただきます。予定です。

昨年、売却の方針を決定し、公募による売却が不調となった文化交流拠点に位置付けている古河駅東部土地画整理事業地内の大街区について、これまでに公募への参加意向を示した事業者等からヒアリングを行いました。

その結果、土壌情報に関する懸念が多かったことを踏まえて、再公募に向けた手続きの一つとして、土壌汚染対策法に基づく詳細な環境調査を実施いたします。

三 新たな時代への対応

技術の進化は日進月歩であり、今やAIといわれる人工知能によりさまざまな判断がなされ、RPAといわれる自動化技術により作業が行われるなど、まさに新たな時代が到来しています。

市ではこれまでに、特にAI技術について市役所の業務や市民の皆さまへのサービスに役立てることができないかを検討してまいりました。令和2年度においては、AIが市民の皆さまからのご質問に対して総合的な内容を自動回答するシステムについて、実証テストを行った上で本格導入してまいります。

また、国連で採択された持続可能な開発目標である「SDGs」につ

いて、市では、令和元年度に策定を進めてきた総合計画における基本計画、健康づくり基本計画、子ども・子育て支援事業計画、スポーツ推進計画において、SDGsと市の施策との関連性を整理したところです。引き続き、令和2年度からは、市におけるSDGsの推進ビジョンをお示しし、関係団体等との連携や協働を進めるとともに、具体的な取り組みについてのプロモーションを実施してまいります。

未来を育む進化の年として

古河市は、本年9月をもって合併15周年を迎えます。合併時からこれまで、人口の減少や住民ニーズの多様化など、さまざまな社会環境の変化の中で市政運営を進めてまいりました。とりわけ少子化による人口減少問題については、その対策に国、地方共に最優先で取り組まなければなりません。

市としましては、あらためて子育て支援施策を見直し、子どもを産み、育てやすい環境づくりのため「子育て支援元年」ともいえるようなさまざまな取り組みを進めてまいります。

子育て支援に関する施策については、広報古河5月号の特集で詳しくお伝えしていく予定です。ぜひ、ご覧ください。

